

## 4 地域別の動向

### (1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方修正、    は下方修正)

#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成17年2月)	今回(平成17年5月)	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	大幅に減少	
雇用	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きがみられる	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている	

#### 1. 生産及び企業動向

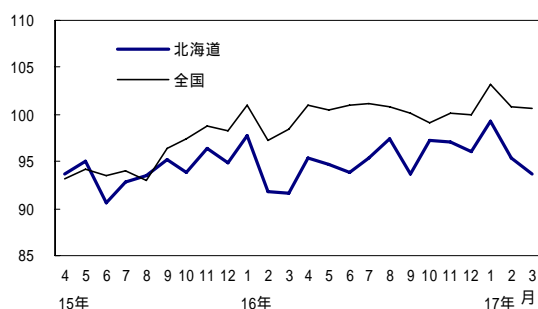
(1) 第一次産業は、生乳生産は前年並みとなり、水産業は前年を下回っている。

生乳生産は、牛乳等向けが増加した一方、乳製品向けが減少したことから、総量では、927,481tと前年比で1.7%減と前年並みとなった。水産業(主要11港主要品目)は、この時期の主力であるすけとうたら(冷凍を除く)やほっけが前年を下回ったことから、水揚量は前年を下回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

食料品・たばこは、たばこ工場の閉鎖などにより2四半期ぶりの減少となった。パルプ・紙は、新聞巻取紙の増加などにより、4四半期連続でプラスとなった。電気機械は、電子部品・デバイス関連製品の不振から2期連続のマイナスとなった。窯業・土石は、2月及び3月にセメント製造ラインの定期修理などがあったため前期比でマイナスとなった。金属製品は、前期に増加していた橋りょうなどの生産の反動もあり、4四半期ぶりのマイナスとなった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
食料品・たばこ	26.5	3.4	3.7	0.9	6.3
パルプ・紙	12.1	1.2	1.4	0.4	3.9
電気機械	9.5	8.4	1.5	0.8	12.8
窯業・土石	9.0	3.6	7.4	6.3	0.9
金属製品	9.0	7.6	5.8	4.9	16.2
鉱工業	100.0	1.4	0.7	1.0	2.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

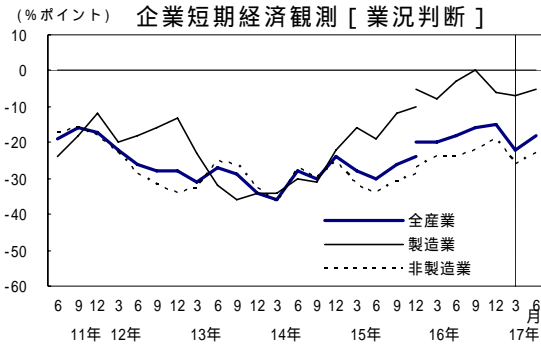
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

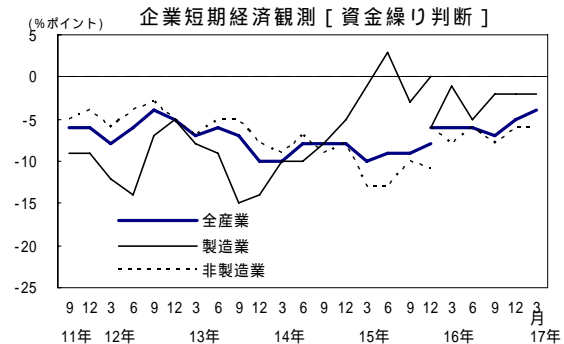
2. 平成17年3月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

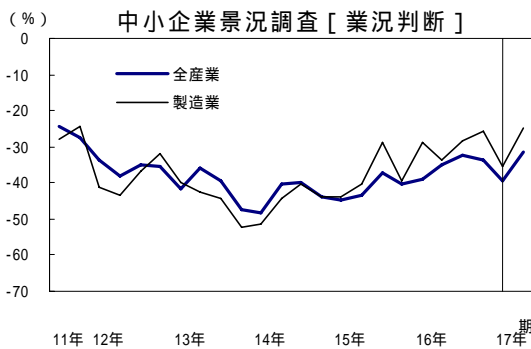
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

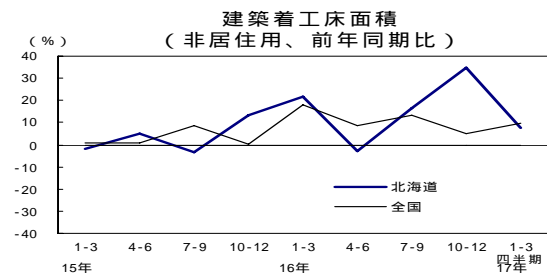
「道内の設備資金は大手製造業の大型投資に支えられているが、地場企業の投資意欲は弱い。この冬は大雪と寒さが長引き、大型小売店や観光地の客足も鈍っている。建設業で比較的堅調なのは札幌中心の分譲マンション程度である(金融業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

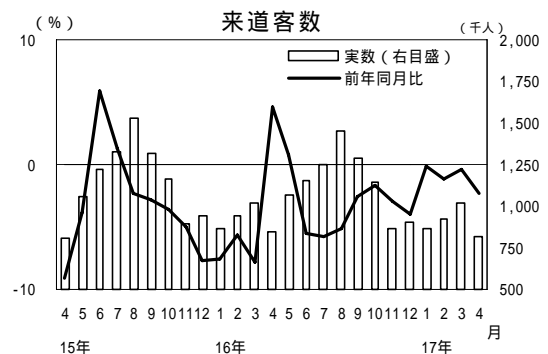
	(前年度比、%)	
	16年度実績見込み	17年度計画
全産業	11.4 ( 0.2)	3.2
製造業	29.0 ( 1.5)	27.3
非製造業	3.5 ( 1.1)	8.8

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はやや減少している。

来道客数は、昨年と比較すると名古屋方面からは増える方向にあるものの、主力である東京方面の他、他の各地域からの来道客数が若干減少している。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

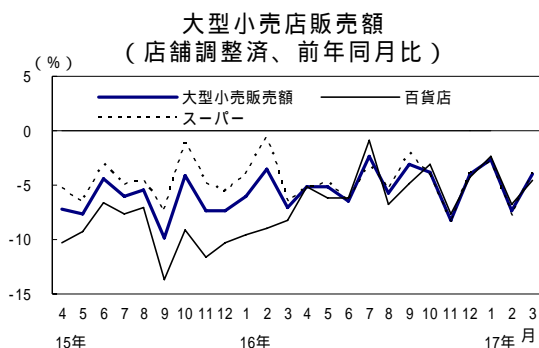
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は身の回り品が前年を上回ったものの、衣料品及び飲食料品が前年を下回ったことから、全体では減少となった。2月も衣料品、身の回り品及び飲食料品が前年を下回り、全体の減少幅は前月より拡大した。3月は衣料品、その他が振るわなかったものの、飲食料品が前年を上回り、全体の減少幅は前月より縮小した。四半期でみると前年割れが続いているものの、前期より減少幅が若干縮小した。なお、日本百貨店協会によると、北海道地区の4月の売上高は、前年同月比で1.1%の減少となっている。

スーパーは、主力の飲食料品を中心に、衣料品、その他が低調だった。特に2月は大幅に減少している品目が多かった。四半期でみると、前期に比べ若干減少幅が縮小した。

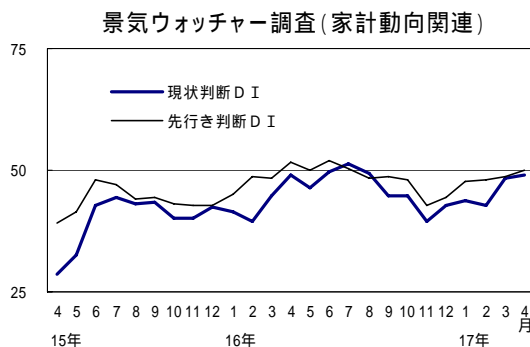
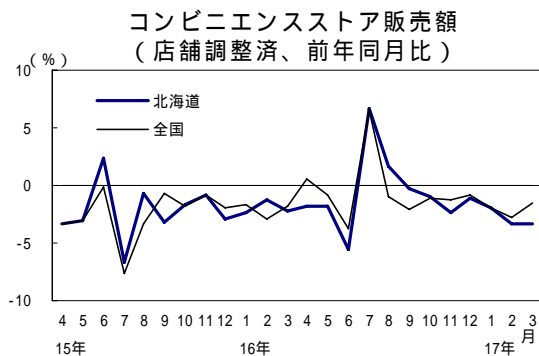
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「3月の実売期に苦戦していた春物のコートや4月上旬に値下げしたところ、ある程度販売に結びついた。また初夏物・夏物を早めに投入しているが、カットソーやセーターなど、低単価の商品が販売の主力となっている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	5.6	3.7	5.2	4.6
百貨店	5.8	4.0	4.9	4.4
スーパー	5.5	3.6	5.4	4.7
コンビニ	3.1	2.6	1.5	2.9
景気ウォッチャー	48.4	48.4	42.4	44.9

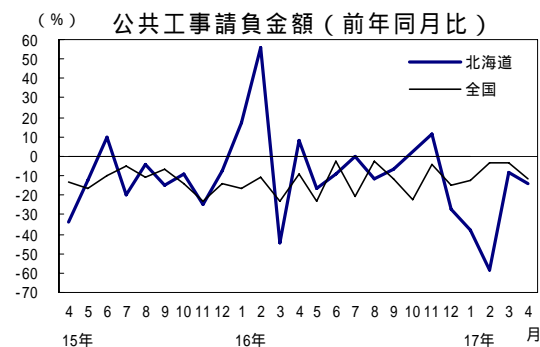
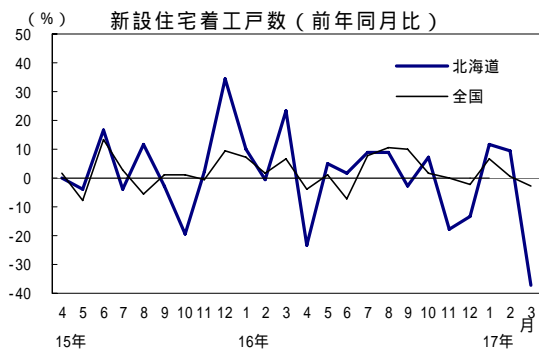
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

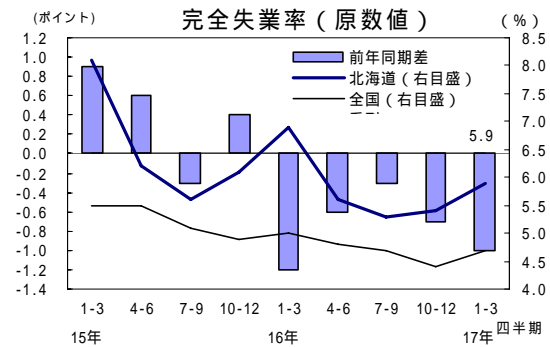
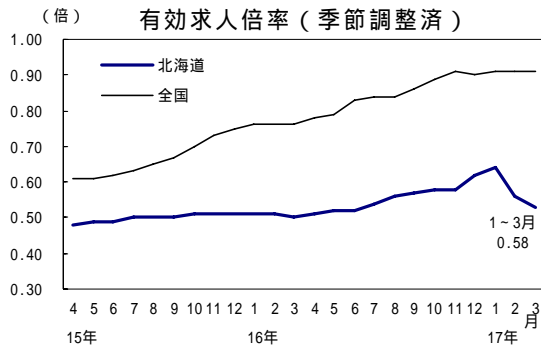
分譲は前年を上回ったものの、持家、貸家及び給与が前年を下回り、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は16年度累計でみると前年度を下回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



#### 景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

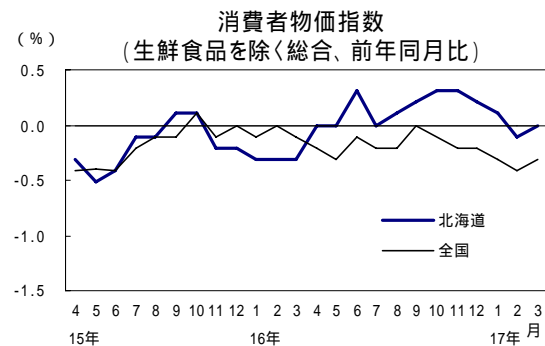
「通年採用や秋採用、追加採用で求人票が増加している。また新年度に入り、求人票を持参して大学へ来る企業の人事担当者が増えている(学校[大学])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

- (3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	163	110	136	168	39
(前年比)	14.7	24.1	0.7	10.5	39.1
負債総額	433	227	510	787	63
(前年比)	83.4	49.4	52.8	76.9	44.6



#### 景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

##### <現状>

- 道内の産業構造がリサイクルを中心に動き出している。特に、石炭価格の高騰の影響によると思われる代替燃料への転換及びリサイクル法関連で新たなビジネスチャンスが生まれてきている(輸送業)

##### <先行き>

- 観光関連は愛知万博に客の動きが大きくシフトされ、前年を割ることは確実と考えられるので、中心市街地のホテル及び飲食店に影響が出てくる(商店街)

#### 景気ウォッチャー調査(合計)

